

## 令和4年度第2回仙北市総合政策審議会議事録

- 開催日時 令和5年3月10日(金) 10時00分～12時00分
- 開催場所 田沢湖庁舎 3階 第1会議室
- 出席者 会長 臼木 智昭(秋田大学教育文化学部地域文化学科)、副会長 菅原一正(仙北市商工会)、佐藤 慎(一般社団法人田沢湖・角館観光協会)、細川 義彦(社会福祉法人仙北市社会福祉協議会)、小原 圭介(秋田おぼこ農業協同組合)、畠山 隆憲(仙北市建設業協会連合会)、赤川 和子(仙北市赤十字奉仕団連絡協議会)、小松 龍子(仙北市ボランティア連絡協議会)
- 欠席者 市川 晋一(仙北市医療協議会)
- 仙北市出席者 市長 田口 知明、副市長 赤上 陽一、総務部次長兼企画政策課長 齋藤 洋、同課参事 永井 尚、同課長補佐 高橋 康、同係長 草皆 晃、同係長 伊藤 潤秋、仙北市政策支援アドバイザー 細川 甚 孝
- 審議案件
  - (1)令和4年度仙北市行財政改革の結果について(令和3年度実施事業)
    - ① 実施目的及び目標
    - ② 実施項目
    - ③ 課題
  - (2)仙令和5年度仙北市行財政改革の方向性について
    - ① 実施目的及び目標
    - ② 実施項目(案)
  - (3)地域再生計画について(報告)
- その他

●齋藤次長

はい、皆様おはようございます。本日は年度末のお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

それでは定刻には少し早いですが、本日出席予定の委員の皆様がお揃いになりましたので、ただいまから令和4年度第2回仙北市総合政策審議会を開会いたします。本日、司会進行を務めます企画政策課長の齋藤です。どうぞお願いいたします。

本日の出席委員は9名中8名で審議会条例第3条第3項を満たしておりますことをご報告申し上げます。本日の出席の市の職員と委員の皆様のご出席は名簿のとおりでございますが、市川先生と総務部長の小田野は本日欠席でございます。それでは次第に従いまして開会にあたり臼木会長よりご挨拶をお願いいたします。

◎臼木智明 会長

皆様方とは夏にお会いした以来ですが、本日で2回目となります会長の臼木でございます。改めまして本日はお集まりいただきましてどうもありがとうございます。前回も少しご挨拶でお話をしたような記憶がありますけれども、こういった市の総合政策審議会という会議は、大抵の場合、予定通りの計画書があって皆さん「はい。」って言いましょみたいな、シャンシャンな会議が多いのですが、仙北市さんはすごく意欲的というか、チャレンジしているというか、すごく他の秋田県内ある25市町村の中で、ここまでの政策の見直しをして、必要なことと必要でないことをより分けていこうと、そのときに普通はお金だけを主軸にしてしまってますね、割と問答無用な切り方をされたりする、なんてということもあってですね、市民の皆さんの満足感がなかなか得られないっていうことはよく聞くお話なんですけど、私がこういった会の会議をお引き受けするときは、いつもそういうふうにならなきゃいいなと思いつつながら、ほかの会議なんかでもお引き受けしたりするんですけど、今回の仙北市さんの取り組みというのは、やめるやめないというのは皆さん市民の皆さんの目線で、どういうふうに必要なのか、必要性はどういう順番をつけていったらいいのか。限られた予算で職員がどういうふうに動いたらいいのかっていうのを皆さんと話し合いをしながら出し入れをしていこうと、そういう取り組みにされているということで、非常に秋田県の中でも先を行く先端的な取り組みなのではないかなというふうに感じている次第です。今日は夏場にいろいろ皆さんと一緒にこれが必要かとかやめた方がいいんじゃないかみたいな議論をしましたけれども、そういったことも含めて市民の皆さんにアン

ケートをとられたらですね、実際に皆さんと一緒に協議をしたその事業が、やっぱりもう1回見直した方がいいんじゃないかということを行政の職員の皆さんが改めてご判断をされた結果というようなことで、夏に皆さんと一緒に検討した内容を改めてここで1回教えていただいて、次年度以降ですね、そういったことをもう少し拡大したりして、皆さんの意向を踏まえた新しい取り組みを追加したりということに役立てていただけるようなそういう場にしていくというふうに伺っております。かなり詳細データを今日ご用意いただいております。なかなかすぐにわからないこととかですね、聞いてみたいこととか、教えてほしいことたくさんあると思いますのでぜひ遠慮なく質問をしていただきながら仙北市のこれからについて一緒に考えてまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

●齋藤次長

会長ありがとうございました。続きまして田口市長がご挨拶を申し上げます。

●田口市長

はい。皆さんおはようございます。また年度末の大変お忙しい中お集まりをいただきましてありがとうございます。私は第1回の総合政策審議会では欠席をしました。コロナでした。東京の方に出張してしっかりもらってきてしまいまして、私は今回初めてになります。会長の方からは多分なお言葉いただいておりますけれども、私も2月末で市長就任から1年と4ヶ月が経過をいたしました。市長就任の際に仙北市を仙北丸という船に例えて、船の底に船底に穴が開いている。そこから水がどんどん浸水してきていると、その穴の要因は第1に少子高齢化である。第2に市役所の財政の逼迫である。第3にコロナによる観光産業を含め地域企業のダメージであると。この三つが浸水の要因であるというふうな話をして、市長に就任してからですね、1年4ヶ月経ちましたけれども、コロナ禍はようやく出口が見えてまいりましたが、少子化、少子高齢化、それと人口減少ですね。そして財政の逼迫というのは顕著に今直面している状況にあります。

今朝のさきがけ新聞にも報道されておりましたが、今議会の皆さんとこの事務事業評価について、こちらの方から限られた予算の中で、何とか子育て支援への予算を捻出したいんだというようなことでお願いをして、委員の皆様からも意見をもらいながら来週17日最終日に採決がありますけれども、皆さんからの厳しいご意見をいただい

ておりますが、私はこの事務事業評価も市民意識調査も全て受け入れて、今のありのままの仙北市の状況をしっかり向き合ってますね、その上で何をどう改善してこれから仙北市を存続させていくのか、また、若者が流出しない自分たちの地域に、自分たちがふるさとに誇りを持って住み続けていただける、故郷のバトンをですね、次世代に渡していきたいというふうに考えております。大変厳しい環境であるというふうなことから、非常に私自身としては危機感を持って市政運営に当たっております。そういった意味で、本日お集まりの皆様からもまた忌憚のないご意見を賜りながらしっかりと仙北丸を目的の、幸福度全国ナンバーワンに向けて進めてまいりたいと思いますので、どうかご協力をよろしく申し上げます。本日は本当にありがとうございます

●齋藤次長

それでは次第の3、案件に入りたいと思います。なお、本日の資料でございますけれども、事前に皆様にメールでお送りさせていただきましたが、案件の順番など変更しております。内容については変更のないものとなっておりますのでご了承願います。また、ご発言の際はお手元のマイクのスイッチを押してしていただいて、発言が終わりましたら切っていただけるようお願いいたします。それではこれ以降の進行を臼木会長にお願いしたいと思っておりますので、臼木会長よろしくようお願いいたします。

◎臼木智明 会長

はい。改めまして、どうぞよろしくお願いいたします。今日はたくさん資料がございますが、ひとつひとつをきちんとご説明をいただけると伺っておりますので、まずは次第に従って案件の方、皆さんと一緒に検討してまいりたいと思います。まず議題の1として案件1で令和4年度の仙北市行政行財政改革の結果についてでございます。こちらについて事務局ご説明をお願いしたいと思っております。

●永井参事

企画政策課の永井です。よろしくお願いいたします。まず令和4年度仙北市行財政改革につきましては令和3年度に実施した事業をもとに行っております。資料としては前にも映っていますけど、資料1をご覧ください。本日、委員の皆様にはその赤丸で囲っている課題でありますけども、こちら仙北市の行政マネジメントのあり方についてご意見いただきたいと思っております。そして今後の仙北市の行財政改革の指針

を決めるための参考にさせていただきたいと思いますので何卒よろしくお願いいたします。また、前回ご紹介いたしましたけれども、仙北市では今年度より細川政策支援アドバイザーからご指導をいただきながら行財政改革等を進めてございます。今回も前回に引き続き細川アドバイスが参加しておりますので、これ以降の案件については細川アドバイザーに説明していただきますのでよろしくお願いいたします。

#### ●細川アドバイザー

先ほどご紹介いただきました細川でございます。私については前回ZOOMでお話したとおり旧神代の生まれでございます。今日はまずは何をお話しするかというと、先ほど永井さんの方からもありましたけれども、今年度に行った仙北市の行政改革をざっとご紹介したいと思います。まず皆様に逆にお伺いしたいんですが、幸福度の説明って聞きましたか。多分聞いてないんですよ。ですので幸福度というと、おそらくビール飲んで幸せといった瞬間的な幸せを皆さん思い浮かべるんですね。でもですね、仙北市そんなお金がないんです。ですので、じんわり来る幸せを作るのが我々の目標にしています。そのことについて皆さん方とどうやって、これからもう3年、4年総合計画があるんですけども、それを進めていくための舵取りの方向性を議論していきたいなというふうに思っています。まず資料の方を確認していきたいと思いますが、皆さん、今画面上にでていますが、まずこれからちょっとご紹介していきたいと思えます。

なぜ行政改革しなければならないのか。簡単に言えば行政の組織って固いんですよ。なぜかっていうと、法律でできているからです。私がこういう商売やって22年目になりますけども大変なんですよ。議会を通して関係者に根回しをして。実はがちり決めるところと、緩やかに変えることのバランスが非常に難しい組織です。今日は民間の方も多いので、民間では簡単だいたい人多いと思います。当たり前です、皆さん社長だからです。市長で選挙プロセスを経て議論してるので結構難しいんですよ。なので、こういう改革をその都度やっていかないと時代に追いついていかないんですよ。だから改革する。今日やるのは、これは前市長下でもこれに近いようなトライはしていました。でもできなかつたんですよ。結果として後にご紹介しますけども、人口減少が止まっておりません。それがすべてです。政治は数字がすべてです。ですので、今回はなそうではなくて先ほど市長も申しましたが、若い人にどうやって予算と

か気持ちとか寄せて、みんなでより元気なまちにするかっていうためのマネジメント経営って言いますが、そこを議論していきたいと思います。

まず人口ビジョンってご存知ですかね。実はこの前作ったんですが、想定より一番低い数より下がっています。これ計算間違っていたんですかね。もしくは社会の変化が想定より早かった。多分両方だと思います。

二つ目。あとこれ多分皆さん方、多分これは市長が散々厳しい状況だと言っているんですが、実は市の貯金が底をつきつつあります。今年は雪が少なかったらいいんですけど、来年台風とかが来たらどうなるかわからない。正直秋田県の地方自治上初めての現象が起こるかもしれません。国、県直轄という可能性がないとは言えません。

三つ目なんですけど幸福度なんです。幸福度って皆さんどうお考えですか。小松さんに聞いてみたいと思います。小松さん、幸福ってどんなときに幸福だと感じますか。何をすれば幸福だなと思いますか。

○小松龍子 委員

普通の暮らしができています。

●細川アドバイザー

そう。これなんです。そこにいる幸せです。普通、幸福度って言うとお金もらって幸せとか、ビール飲んで幸せとか議論するんですが、そうではないことを皆さんと共有化したいと思います。資料番号2になります。ざっとご紹介したいと思います。幸福度って簡単に言うと、心のありようです。二つあります。ビールを飲む瞬間的な幸せとじっくりくる幸せ。正直、今までの日本の地方自治のほとんどはビールの幸せを追求してきました。結果どうなったかという、ビールが飲めない自治体は撤退しました。わが市も近いかもしれません、そうじゃないと信じてますけど。今回、田口市長が当選された折の公約の中の幸福度はウェルビーイングというものです。要は持続的で内面に深く根ざした、先ほど小松さんもおっしゃっていましたが、「いや一仙北市に生まれて良かったな。」ってじんわりと言葉にできる幸せを我々は目標としたいと思っています。お金をばら撒いて、「いや一今日飲みに行くかあ。」っていう幸せは違います。それは目標としていません。です。でそこまで皆さんと共有化したい。こういう議論はあまりしていないんですよ。なのでいろいろ事業が増えて、幸福度が上がるというんですが、金を巻いて幸福度が上がるのだったら皆さんもう幸福になっ

ていますよ。でも幸福になっていないでしょう。というふうにもまず考えていただきたいなと思います。なぜかという、これは今、国の内閣府とか、今後も皆様方にお世話になるかと思いますが、デジタル庁とかが幸福度を上げるために施策を作っております。これもあまり言われていないんですけどそうなんです。実はじんわりくる幸せをどうつくるかっていうことのためにデジタルを使ったり、お金使おうぜって言うんです。何でかって言うところなんです。やってみたらですよ。貧乏人が発生したり、環境が壊れたり、健康をやられたり、地域コミュニティの崩壊とか、経済が発展すればそれでいいのかってことなんです。というので実は今いろんな議論が、これは世界的に意識しているんですが今やっております。わが市もそれに乗っているというか、その流れの中では最先端かと思っています。東北地域においてといいますと、5ページを見てほしいんですが、実はですね、滝沢市さんとか、岩手県さんとかでやっております。2010年ぐらいから実はやっております。元はというと、東京の荒川区さんがやっております。なんでかという、東京で荒川区という、ええっ荒川っていうんですよ。なんでかという、やっぱりブランドイメージがあるんですね荒川って。でも実はそうじゃない。住んでみると良い街だってことを証明したいって言ったんですよ。そうしないと、幾ら金をばらまいてもイメージに負けちゃうんですよ。そういうのがスタートだったんです。そして新潟、浜松、富山とかがやっていますが、2020年に入って、朝来や群馬、朝来というのは兵庫県朝来市でございます。天空の城竹田城で有名なところなんです、僕はそこで講義をしておりますとかな、そのほか群馬県の方でも講義をしていますが、その後、滝沢市さんとかは北東北ではもしかしてナンバーワンかもしれません。とても良く整理された計画をつくられている。最近ですと、茨城県さんとかもやっています。実はこのトライは全国的に最先端なトライです。なぜかって言うとお金をばらまいても人の減少、人口移動が止まらないって皆さんご存知ですよ。もし効いているのであれば、人口減少が収まってるはずなんです。収まってないということは金をばらまいても効果は限定的だってことがわかってきたっていうのが皆さんにお伝えしたい点です。で、こんな事例がいっぱいあります。

仙北市は幸福度についてもアンケートをとっております。すいません今日資料がいっぱいあって、資料の3を開いていただけますか。これ、見られましたか。ホームページに公開されていますけど、皆さんお忙しいから時間がないかとは思いますが、ちょっとかいつまんでいうと、幸福度ってここにも書いていますが、今日いらっしゃっ

た皆様は幸福度高い方かもしれないですね。男性が今日方多いんですけど、男性の70代60代って幸福度が高い方は全体のだいたい4割くらいいらっしゃるんですね。30代で3割でもですね、皆さん見てほしいんですけど。10代20代は幸福度が高い方が少ないんです男性。これは出ますよね。だって、ここにいていいなあって思わない地域に住みたいと思いますか。思わないんです人は。人情ってそんなに良くできていません。女性の場合って、今日は女性の先輩方がいますけど、女性の60代70代って、やっぱり70代の女性の先輩方は半数の方が幸福度高いって言っていますね。これ高いって当然なんですよ。この町を選ばれて住まれてずっといらっしゃるから、否定はしづらいじゃないですか。でも我々が今考えるべきは、先ほど田口市長も申しましたが、若者なんです。女性だって若い人は幸福だって言っている人は少ないんです。男性はもっとそうです幸福度が低いんです。20代で3人に一人が「俺、ここさいて良いと思わね。」っていつてますよ。これが今の仙北市の実態です。だから出るんです。だって自分が住んでもいいなって思わない場所より自分の生まれ来る子供がいいなって思う場所にみんな移動しますよ。これが実態でございます。

ここを見てほしいんですけど、そこで仙北市はただ幸福っていうじゃないですよ、6つ考えたんですよ。1つ目、やりたいことがある人がいっぱいいたらいいよねって。そうじゃないですか、自己実現できる町には人は残りますよ。もっと言うと、それに向けてチャレンジしてる人が多い町、そして生きがい。そしてあとは、今日は社会福祉の関係者もいらっしゃると思いますけど、やはり大切に思ってくれている人。ここにいて面倒見てくれる人が何人いるべってことなんですね。そして頼れる人がいる、居場所がある人、この6つで幸福度を考えるっていうトライをしています。これは実は兵庫県朝来市さんとか岩手県滝沢市さんの例を参考に作っています。そしてやってみたらすごい結果になったんですよ、こんなになると思わなかったです。皆さんここを見ていただきたいんですが、青が幸福度低い人、オレンジがまあまあ。灰色が幸福度が高い人。普通はね幸福度が高い方を明るい色を使うんですが、今回はちょっと逆に印刷してしまっていますが、幸福度が低い人ほどやりたいこともなく、チャレンジもしなく、生きがいもなく、頼れる人もなく、居場所もない人。ここを直すことが我々のタスクなんです。ここへ向けてどうやってお金を配分していくか、あと行政のスタッフの方の気持ちとか汗とかをどう配分していくかっていう方法を決めるのが今日の会議です。しかしここまでの結果ができることはそんなにはないですよ。僕もいろんところで調査していますが、普通はもうちょっとやりたいことが多いとか、あ



りえるのは頼れる人がもっと多いとかいうパターンはあるんですけど、これはちょっと衝撃的なデータです。これはちょっと来期の予算編成に向けてこの議論をちょっとやりたいかなってところがポイントでございます。

あとは強いて言えば、皆さんこれを見てほしいんですけど、いや、これも衝撃的ですよ。と僕は思ってますが皆さんはどう感じると思うかわかりませんが、意識調査の結果で、意識調査では住んでいる地域の愛着を聞いているんです。皆さんはここに住んでいらっしゃるの、皆さんは愛着があると思いますし僕もあります。なーんていうと、なんでお前はそこにいるんだといわれますが。すいません。まずポイントは、これからも仙北市に住み続けたい人は6割2分8厘。いいですよ。これは素晴らしいと思います。ところが、家族や友人に仙北市への移住や定住を勧めたいと思いますかということでは、積極的に思う人は20%くらいで、5人に1人くらいしか勧めていないんですよ。それは人は住みませんよ。だってお家はいいから来いよって言えないっていつているんですもの。これが実態です。だからいくら金をばらまいたところでここを変えないと変わらない。金で人の気持ちは変わらない。というのが皆さんに感じてほしい。だってこれを見ると、「住みよい」と「まあ住みよい」でだいたい5割、6割ぐらいいは住みよいといっているんですよ。なんで勧めないんですかね。赤川さん、なんでですかね。

#### ○赤川和子 委員

特にコロナの影響とかがあってそう思うかもしれないですけど、逆に人がいなくてよかったと。住みやすくていいとは思いますが、やはり家族とかにはここにきて住んでくださいって私も言えないです。私も今75なので、娘は私が寝たきりとか介護が必要になれば帰るっていうけれども、娘の下の子供が今年で高校受験で大学卒業するまでは元気でいてねって、今戻っても働くところがないからって。だから途中で来ても働けるっていう環境があれば呼び寄せることもできるし、子供自身も親の看病とか同居するっていう気持ちで来るお子さんたちもいると思うけれども、やっぱり40代の人たちが途中で来て働くっていうことがなかなか難しいなって思いますね。

●細川アドバイザー

ありがとうございました。まさしくこれが現状だと思います。みんな地域を愛していると思います。でも呼び寄せる動機がないんです。来てけれって言われて、いや一職がねえぜって言われたときはどうしようもない、じゃ生活保護にでもなりますかって話ですよ、それ嫌じゃないですか。これがポイントでございます。というのが前回、前市長でもやってきたんですが、ここまで迫ってなかったんです。今回迫ってきてわかったことなんです。愛しているけど勧められない事情がある。というのが皆さんに感じてほしい一つのことです。この手のアンケートは全国的にやってるんですが、やっぱりこの移住定住を勧めるっていう項目についてはあまりやってない。怖いんですよみんな。だって勧められないとわかってるから。これが皆さんにお伝えして一番のことです。

じゃ次にいきたいと思います。一回ここでご説明しましょうか。これは今回やった市民の意識の実態でございますけども、何かコメントとか、俺はこうは思わねっとか、俺いえだばちゃんと書いてきたとかいらっしゃいますか。大丈夫ですか。ここでちょっとおさらいをしたいと思うんですよ。何をおさらいしたいかという、行政の政策って何でできているかってことをおさらいしなければいけません。そうしないとなんでこんな評価をいっぱいするのかっていうんですよ。なぜかという、行政って計画でできてるんですよ。皆さんもこの会の前に企画政策課の方から、総合計画とか総合戦略とかが送られてきたと思うんですが、なぜかいうと今回の田口市政もそうなんですけど、市長も勝手にやってるんじゃないんです。総合計画とかの計画にのっとって粛々とやっているんです実は。それで三つあります。一つは事務事業。要は各課がやる事業を事務事業といいます。資料2の一番最終ページになります。ここで何を言いたいかっていうと、お金の配分なんです。やった以上成果を出してよと。一人当たりいくらコスト使った。民間では当然なんですけど。でもそれがないと何が生じるかという、例えば企画政策課が10人必要ですか5人必要ですかっていう根拠がないんです。これがひとつ。あと実はこれは市町村どこでもそうなんです、一つ一つの事務事業がどんな成果を出してるかっていうチェックってあんまりしてないんです。だってこれ令和3年の事業ですよ。1年遅れてるんじゃないかって言うたら、その通りです。ごめんなさいあやまります。でもそういうものなんです。これは正直、日本の地方自治制度全体の話なんです。それでもやらないよりはやったほうがいい。

次、施策があります。要は1本1本の事業を二つ以上あるのが政策です。資料5です。ここで何が言いたいかというと仙北市に関して申しますと、今走っている基本計画は、SDGsとかいろんな目標があるんですが、それを達成するためにそれぞれのプロジェクトとしてでどんな効果があった、どんなふうに住民が満足したということを調査して、これで大きな予算枠を決めたんです。つまりさっきの事務事業では、1本1本の事業をチェックする。これは2本以上のプロジェクトをチェックするんです。なぜそうするっていうと、事務事業評価ってやればやるほど、これはとても残念なことなんです、役場職員のやる気を奪うんです。だってお前がた、けずれ、けずれ、けずれって言われてやる気が出る職員はひとりもいません。なので1本1本を管理しますけど、いわゆる一つの課とかでやってるプロジェクトごとにもう1回やって、お金の額を増減させるというのが基本的な取り組みです。そして最後に政策とかより良い社会、まあよりよい社会というものがどういうことかということなんです、政策の目標策定の動向が資料8でございます。今回は3層構造で分析をしております。1本1本の役場職員がやっていること。〇〇課でやっていること。そしてこれが基本計画という5年間の計画でどういうふうに進んでるかという三つの階層でチェックすることで具体的にどこにどれぐらいお金をつけたらいいのかということの議論の指針を作ることが今回の目標です。なんかあれですね、行政評価の研修みたいになってきましたね。ではこれから説明していきたいと思えます。まず目標は繰り返しますが、必要なところに必要なコストを配分できる仕組み作りを今回やりたいと思えました。これあくまでも今年度です。なぜそうするかというと、これまで必要性がどうかというのは数字でわかっていなかったからです。簡単に言うと大きな声があるところはいっぱい予算とったんすよ。けれって！いう。といってもですよ必要な事業ってあるんです。例えば、金銭的に大変な方に支援するとか、例えば若者に優先的になにかするとか、必要なんです。ってことは、1本1本事業をちゃんと精査できないと非常に雑にお金使っちゃうんですね。それをなんとか精査したかった。そして最後は今回の市長公約でもありましたが、幸福度って実態をどうなっているかを知りたかったんですよ。だって結構幸福度ってからくり論争が多いんです地方自治の業界では。ところがなんポイント不幸かっていう指標って誰もしていないんです。今知りたいのは実は幸福と、あと不幸なんです。何%不幸ですか。見ると、若者が不幸なんです。そこが今のポイントでございます。

そして三つの方針でやりました。一つは効率性。1本1本の事業が最小限のコストで最大限の効果ができるようにすること。

二つ目、ちゃんと政策目標。今回ので申しますと二つあります。ひとつひとつの課の目標、そして幸福度をあげるためにちゃんと貢献してるってことです。三つ目、あと政策全体として、基本計画全体として、全体最適になってるかどうかの確認をしたいと思って今回やってみたことです。結論から言うと、もう1年かかるかなって感じですかね、今日は忌憚なく皆さんにご意見をいただきたいと思っています。

まず、実施項目。先ほどもご紹介しましたが市民意識調査でございます。ここは割愛しますが、簡単に申しますと、状況としては幸福度はそんなに高くない。特に若者、特に男子。男子の若者の幸福度が低いということは人口流出するのは当然です。だって、先ほど赤川委員もおっしゃってましたが、仕事がないと人は住めないものという議論になっちゃうんですよ。僕も高校は角館高校ですが、同級生のほとんどが県外ですね。たまたま市役所の方が多いけど、それは例外だと思っています。あと重要度なんですけど、ちょっと見ましょ。まずね、これちょっとご紹介したいと思います。皆さんこのページを出してもらえますか。これさっきの意識調査。資料3です。満足度でどうやって考えているかご紹介します。これまでやって市がやっていた事業に対してあなたどう思うかって、これは過去なんです。やってきたことに対して一番不満が多いのは生活安全とかかもしれないですね。その前に仙北市全体の課題なんですけど、「わからない」が多すぎるんです。要は市がやったことに対して、俺はしらねえでって人が多いです。これはとても残念ですけど、市民が市政に対して無関心っていうんです。これは極めて深刻な問題です。たとえば一番わからないのが多いのは移住定住なんです。この中で100人切っているんですよ1年で。なんでこういう状況なのかって多分皆さん関心がない。もっというと市としてそこに対して情報発信をしてきたかっていうと、この数字見る限りではノーです。これが正直なところです。僕の仕事でいろんな地域でやっていますけど、大体「わからない」と答えた方が2割から3割でそれでも多いなあって、だいたいいつも区長はカンカンなんです。僕の場合23区とかでクライアントが多いんですけど、いつも区長がなんでなんだ！ってカンカンで部長とかに怒鳴り散らす方が多いんですけど、ちょっと多すぎますよね。移住定住しないと人は増えませんよね。帰ってこいって言いたくないですか。みんなどうでもいいみたいです。

二つ目。でも重要度はねみんな大事なんです。なぜならこれからのことだからす。いいですか、満足度は過去、重要度は未来なんですよ。てことは、これから何をすればいいか、ということに対しては関心を持つんですね。見ると一番重要なのはやっぱり医療、福祉、地方創生、やっぱり仕事とか元気とか活性化に関してやっぱり皆さん注目されてるみたいですけど、実際は移住定住41.3%ですね。低くないですか、ここなんです。簡単に言えば茹でガエルなっちゃうかもしれません。だってこれまでやってきた移住定住の話には関心がなくて、これから移住定住やりたいう話にも関心はないんですよね。これが実態でございます。このことをちょっとこれ1回目なんで、来年再来年とやることによって、ちょっとでもいいからわからないっていう人の数を減らしていきたいと思っています。まだイエス・ノーがあるのはいいんですよ、ノーの人の話を聞いて直せばいいからです。我々は独裁政権ではないので、直すんですよ、言われたら直します。直すところがわからないのが今の実情でございます。どなたかにお聞きしましょうか？僕が仕切ってやるのも微妙ですけど畠山さん、いかがですか。ここの意識調査で多分これ丁寧に説明されていないと思うけど、いかがですか。

#### ○畠山隆憲 委員

そうですね。移住定住の政策の重要度がアンケート的には低いってのはびっくりはしています。正直私も今、19と21の息子がいますけれども、幼い頃から別に仙北市から出ていってもいいよみたいなことをちょっと話はしてたことがあります。というのも先ほどおっしゃったように仕事の職種が少ないだったり、いろいろなことを勘案して言ったんですけど、若者的にはレジャー的なものが少ないであったり、将来の夢でYouTuberとかでなんかいろいろあるじゃないですか。結局あれもすごい大変なことなんですけど、部分的なものだけみて、若者たちがそっち系にいくっていうのもわかるといえばわかりますが、それ以上の何か幸福度が得られるような仙北市にしてこれから若者を誘致してほしいなあって思います。

#### ●細川アドバイザー

ありがとうございます。まさしくそうだと思います。その他ございますか、これが実態だと思います。市民感覚的に。副会長いかがですか。

○菅原一正 副会長

この資料を拝見してひとつ思ったのは、例えば産業振興であるとか生活安全、移住定住、こういったものというのは世代によってもちょっと違って来るのかなと。

これはもういっしょくたんにしてこの表になっているので、世代でもパーセンテージとか割合とかがわかれば次につなげていけるのかなと思います。あと裏の年代別、私思ったんですけど、18歳から20代、30代から40代、この年代の割り方もどうなのかなってというのが、だいたい50代前後になれば、これまでの生活ってというのは安定してしまふ、もしくは言葉は悪いけれども諦め的に生活しているのかもしれない。だからもう少し若年層というか、若い世代にスポットを当てた、はっきり数字がわかるような世代割でもいいのかなと思います。

●細川アドバイザー

詳細は実はホームページにアップしてますが、年代の割り方に関しては次年度に柔軟に対応したいと思います。ありがとうございます。

○小松龍子 委員

今までの仙北市の会議のメンバーは、ちょっと前までは地域で有名な人だとか、力のある人が集められて話し合っていた。実は仙北市にも仕事はないわけじゃない、あるんです求人もでてますし。ただ自分がやりたい仕事ってなるとどうなんだろうってというのはあるんじゃないかなと。例えばそういう場所に若い人たちがでられないというか、届けられない。今なんかの会議っていうとそうなんですけど仙北市っていうと、例えば何かの会議っていえば、男の人たち、知名度のある人たちみたいな人たちだけが、同じ顔ぶれの人達だけがやっぱり出ているんですね。例えば観光の会議であるとか、そうじゃないですか。家で決めるのは多分子供で、子供がその地域を見て、「ここさ行きてえな」って父さんにしゃべって、お金出してもらって、家族で旅行するって。でも受け入れる側の会議は全部男の人の高齢者で若いそんな人いないんです。「えっ」て思うんです。こういうときにこそ若い人の声が届けられる、自分だったらこう思うって声が届くような、そういう会議にしてほしいってつくづく思います。こういう場所も若い人にきてもらったら、自分たちの声も届くって、絶対変わって来ると思うんですね。

●細川アドバイザー

ありがとうございます。その通りだと思います。だからこそDXなんです。LINEで意見出せるようにしようと。だって普通の30代の男子が平日のこの時間に来ますか。来れませんから。ってことはそれを補うためにLINEとか、今皆さん登録されてますよね。ぜひ仙北市のLINEが受信ができるようにしていただいて、ぜひコミュニケーションのあり方の性別とか、世代間のコミュニケーションをどうするかは次のテーマです。多分来年度以降には、今市の方で議論しておりますが、いわゆるデジタルトランスフォーメーションの中でこれを推進すると思っています。

次、事務事業評価を紹介したいと思います。資料4になります。前回の審議会でご議論していただいた内容もはいつていますが、これちなみに市の事務事業ってこんなもんじゃないんです。この10倍くらいあるんです。前回の外部評価のときにもご紹介しましたが、市で対応が大きいものを中心にピックアップしております。なぜかという日本は地方自治って言うてますけど、多くのものは助成金と補助金でできて、お金出す方が偉いんです、当たり前ですよ。なんでやり方とか方法は実は県とか国のガイドラインに従うことが多いんです。でも今回ピックアップしたのはそうじゃないんです。比較的市の意向が、こなせる、できるだろうというものを中心に作っております。これ一個やるだけで3日ぐらいかかってしまうので最終ページをご覧ください。どんなことができたかと申しますと、これはですね実は他の市より、僕の経験談ですが、うまくいったなと思ってます。どんな評価になったかという、拡充から廃止までやってみたんですけど、107の事業です。実際は1,000か2,000ぐらいいろんな事業が多いんですけど。実は皆さんチェックしてほしいのはここなんです。「縮小」、「段階的廃止で大体19%くらい。もっと言うと「条件付き継続」まで入れると約半数以上はチェックできたんですよ。前まではスルーだったんですよほとんど。「いいじゃないですか、どうぞ」みたいな。そうじゃなくて、1個1個チェックすることによって、いらぬものがわかってきた。一部皆様方に確認していただきましたが、これがポイントです。来年以降なんですけど、もうちょっと事業数を増やせたらなって思ってます。これ大変なんです、実は1個1個書かせるんですよ。皆さんのお手元にこういう事務事業評価シートという資料があるかと思いますが、これ各課に書かせるのが大変なんです。各課のほうに手間を取らせるんです。これの書き方を教えるのに時間がかかるというのが問題ですが、結果として107ある事業のうちで21事業に関して言えば、スクラップもしくは改善できたというのが今回の成果です。なかなかいいんじ

やないですかね。もっといえば2割ぐらいが縮小、段階的廃止だといいかなくて感じ  
です。逆になんか5割以上縮小とかだと何のために計画作ったんだといわれちゃうん  
で、大体2割ぐらいが妥当な感じがします。大事なのはこういうのって一般市民は見  
ないんですよ時間ないから。それを今回皆さんを通じて意見を聞く場を作ったことは  
大きなことだと思って思います。だってそうしないと議論する場すらないんです。そこ  
が今回のポイントです。

次が政策でございます。資料5です。これが施策です。総合計画で書かれている内  
容の施策をひとつずつ目標値をあげて、皆さんの声と掛け合わせるによってどん  
なことが言えるのかということをやってみたんです。皆さんこれ見られたらこんなに  
あるのかって思ったと思うんですね、ちょっと多いですね全国的な傾向と比べて。ち  
よっとわかんないんですよ。これもやってみたら結果的にこうなりました。最終ペー  
ジの方にコスト手法判定マトリックスというものがあって、これは課ごとに何個かあ  
るプロジェクトが今後どうやってお金をつけるか、もっと頑張れっていう判定をI  
~IXってあって、大体どこの自治体でやってみると5番と6番が多いというのがパタ  
ーン。なんでかという、これって達成するとお金を削るっていう仕組みなんです。  
なので仙北市って今年で基本計画を作りまして2年目になりますので、基本的に現状  
維持が増えるのは当然だと思えます。だってできていないのにいらないうて言えない  
んです。そこで皆さん考えてほしいのは、目標値ってどう考えるかってことに実は尽  
きます。目標値を間違っただけに設定すると間違っただけの判定になります。そこがミソな  
んです。ここはまたあとで全体での議論をしますけど、そこは次のポイントです。  
それでやってみたらどうなったかという、こうなりました。縮小の3と6と9が多  
ければ少し目標に達したっていうんけど、実はですね、そんな多くないんですよ。で  
もしょうがないんです。今年で計画で約2年目なんです。そこはしょうがない。です  
が、これが実は3年目4年目5年目、令和6年ぐらいには縮小が多くなったらいいな  
と思えます。だってできているんだもの。追加投資がいらないうていう判断にしたい  
なと思ってますが、これ非常に大事なかなというふうに思っています。つまり、事務事  
業が積み重なって施策になってそれが積み重なって、基本目標の数字になります。

これが先ほど資料で書かれていた政策評価の内容でございます。でこんな結果に。  
これは当然な感じがしております。それでも問題は一個ありますよ、施策が多すぎる  
んです。わからないんですよ。例えばこれなんて一番難関ですね、44番。誇りある暮  
らしを繋ぐまち、移住定住対策。これ総合計画と総合戦略がごっちゃになってるから



なんですけど、移住定住の促進という同じ内容なんです。でも違う計画になっている。ですがこういうことが連発しちゃうんです。これなんて答えられますか皆さん。例えばこれなんかいいんじゃないですか。「創造性あふれる産業が息づくまち - 交流人口の拡大と特色ある観光」と「創造性あふれる産業が息づくまち - 質の高い観光地形成」、何が違うんですか。答えられないんです。ってことは、実はこういう政策を評価するポイントってシンプルであることです。我々はわかりますよ、多分これだなとわかるんです。それは毎日やってるからです。毎日全国の自治体の計画を読んでこれはこうだって言ってるんですけど、これはやっているからできるんです。僕は今年やって22年目なんでできるんです。普通はできないんです。なのでこういうことが次のテーマかなって思っております。

次に、これが基本計画ベースで政策目標ってやつですね。続いて、まちづくりの目標、これで仙北市の行政が動かしている三つの指数がわかります。事務事業、施策、政策。これで考えていくと結果的にどんなことがわかったかというと、皆さん今日基本計画お持ちの方は読まれていると思いますが、令和7年に達成する目標なんです。残り3年残っちゃってるんですよ。ここがミソなんです。でもですねこれは一つ言えるのは仙北市政は着実に進んでいるとはいえます。だって前向きなんです。それを否定するものではない。僕は現課を攻撃する気は全くない。ただ100%はもういいってことになるんで、来年どうするんですかね。ていう問題に次突入したんです。これ多分民間会社はそうですけど、経営者の方はご存知だと思いますが、目標を下げすぎるとすぐに達成しちゃって困っちゃうんですよ。ですよね、佐藤さんいかがですか、ご自身も会社経営されていると思いますが。

#### ○佐藤慎 委員

おっしゃる通りだと思います。多分自分的には達成率でみる数字と実数みる数字を間違っちゃうと危険だと思うので、率が100いっているからオッケーとはならないし、今日の議論ではもちろんいいんだけど、結局次に何作るかっていうことの指標にはならないと思うんですよ。

●細川アドバイザー

ありがとうございます。そこが来年度に向けてひとつの目標になるかと思います。なんぼ上げればいいのかと、何%上げればいいのかは微妙に重なるようで重ならないんです。これはしょうがないんですけど、こういう評価しかできないんですけど。これが一つのポイントかな。でもただ言えるのは100いっているということはマイナスではないということで、それは否定しがたいと思います。例えば農業法人とか、黄色で着色しているところですけど、特定健診とか交通事故死者数とか、ちゃんと成果が上がってるんです。あと上から三つ目の医師数です。比較的前向きにきてるんですね。ただ来年なんとするか、そこをちゃんと考えるべきなのが今の問いで、たしかに皆様方と来年度にかけてご議論していきたいと思っています。どういう指標を作ったらわかるんだろうって、こうなれば実は専門家より皆様方のあえて言いますが、素人の方が正確なときが多いんです。直感でいえるから。我々考えてしまうんです。なんとか法によればこうだからとか。なんとか省庁はなんとか計画になったとか。それって実はわかりやすいようで実はわかりにくいんですね。これが今の現状です。まあなかなかそうですね。100にいつてるものちょっと多すぎる感じもしますね。一番成功してるのはですね。表でいうと5行目ですか、117%。地域子育て支援拠点事業利用数、目標1,200で今年実績値でいうと1,409ですか。対7の目標値を突破したんですよ。いいですよ。来年からどうしましょうね。こういうのをちょっと確認しつつ、適切なものを令和7年に向けて考える作業が今まさしく今日からスタートすると思っただけいいと思いますけど、今やっていることでございます。これね結構大変なんです。各課に言わせると、もう1回調べるといふ行為が発生して大体めんどくさい作業なんです。だけど、あえて言葉を悪くいいますとケツを叩いてやるのがこの会の一つの責務かなと思います。これ以降また、来年はまず事務事業と施策と意識調査が出た段階で皆様方に内容をお示ししたいと思います。

最終的にはこういうふうに判断します。このページの最後を見たらうと、ちょっとこれはサブ的に考えてほしいですけども。達成してて、満足がうまくいかないってまずくない？って考えることができます。例えば、このABCのABCは262っていう統計の手法を使って分類したんですけど、やってみたらやっぱり達成したけど満足してないとか、まあまあ達成したけど満足していないって多いんですよ。指標が間違っている？だって達成しているのに満足していないってことは何か問題がありそうじゃないですか。達成したら満足するって当たり前じゃないですか。すればできる関係なんで

す。論理学でいう手段目的関係なんです。達成しないということは何かしらどっかに不都合が発生している。だけど先ほど申したとおりに指標の立て方と、あと数字目標の立て方にちょっとまだエラーがあるように感じられます。このことを来年度皆様と一緒に検証していきたいなというふうに思います。これがポイントです。

そして、今日最初に見る資料はまずですね。まずこれは令和3年度のことで、令和5年度に対して何をやっているかということ、行政改革で一発目として部ごとの経営方針っていうのを作りました。実はこれが実際、総合計画の中身の実体化といってもいいと思います。きれいごとは書かれていないですよ。結構ちゃんと書いてあります。例えば総務部のものを見ますけど、ちゃんとやるべきことが書いてある。これは令和5年度なんで来年度ですけど、役割と使命があります。てことは来年の今頃進んでますかっていう問いかけをします。やってなかったらなんでよって繰り返し聞きます。まあ言い訳という言葉悪いですけど、言い訳を聞きたい。そこがしょうがなくなのか、さぼっててなのか、いろんな理由があるのかわかりませんがそこを確定したいなと思います。そして3つ目の「6つの重要視すべき価値」、これが実は仙北市役所として市民に対してどんなサービスを提供するかっていう目標になります。ここをちゃんと聞いていきます。たぶん来期の8月ぐらいかなと思うんですが。進んでますかっていう確認はその前後にして、もしタイミングがとれたら皆様方にメールか紙ベースでご報告すると思いますし、ちゃんと市民ひとりひとりになっていますか？だとか、あとちゃんと目標を取り続けてますか？あと新しい手法とかちゃんと考えてますか。こんなにDXが進むなんて30年前は想像していなかったですからね。どんどん新しい手法が出てきています。そこに追いついている方もいらっしゃるし、追いついていない方もいます。

4番目、やっぱり実はここです仙北市的には。心身ともに健康ということなんです。実はメンタルとかで不都合が起きている方って少なくないんですよ、職場で職員が不健康でいい仕事ができますかって。できないんですね。あと残業時間もちゃんとやらないと駄目なので、こういうことを言う。でもこういうパターンあるんでしょうね、これデータでわかりますし、来年度のことちょっと後で喋りますけども、残業時間が多い課には質問すると思います。なんで多いんですかって。残業時間をゼロにできるように計画してっていうことを聞きたいなと思います。

5番目に連携でございます。いわゆる地方自治の動きのほとんどは役所だけじゃないんですよ。今日いらっしゃるみたいに、民間事業者、団体さんも組まないとなら

理なんです。課題も変化のスピードが早いからです。それから僕はちゃんとコストにこだわっていきたい。金がないんですよ。某方がもう金がないなんて言うなって言ってるみたいですけど、お金がないのは事実なんですから繰り返し言うしかないんです。だからこそ1人1人とか何個あたりとか、何メーターだったり単位あたりのコストにこだわってちゃんとやれっていう指示がここでです。だってそうしないと金の切れ目が縁の切れ目みたいになっちゃうじゃないですか。もったいないですよ。なのでこのように思って各課に書いてもらいました。

これちょっとまた来年度のことなのでちょっと今日ご紹介しませんけども、皆さん方は読んでいただいて、ご自身の事業とか生活とか活動に関係する課とか部とかでどうことを考えていて、何が課題とと思っていることを確認してもらえたらなと思います。結構これ悪くないんですよ。正直これがなかったらわからなかったですね。基本計画なんか読んでわかりました？あえて小松さんの言葉を借りてダイレクトに言うちょっと綺麗ごとがかいてあるんですよ。知りたいのはリアルなんです。っていうのがわかったんで、これを基に来年度の事業は動いていきますので、皆さん方確認は簡単になります。これ、やってねーね！というのが見えます。それが皆さんにお伝えしたい点です。

というところで、だいたい僕の方の報告は終わりなんですけど、先生どうでしょうか？これ5分間ぐらい休憩して、今年度の評価と来年もこうしたいというのを報告していたと思います。それでもよろしいでしょうか？11時10分から再開いたします。

(休憩)

#### ●細川アドバイザー

では再開いたします。ではこれからは5分ぐらい総括いたしまして、課題について報告したいと思います。そのうえで令和5年度どうやって行政の管理をするのかというお話をし、そして皆さんと議論したいと思います。一番困ってるのはどの課に何人配置していいかという根拠がない。なぜかというと皆様方にここを見てほしいと思います。事務事業評価シート。資料を手元にこれ見てもらうと、要はですね簡単に言いますと、仕事って基本的に人件費、事務費、原材料費ぐらいなんですよ。それで成り立っている。あと給与がありますね。ありうるのはですね、仕事に対して人の数が少ないと残業時間が増える。役所の建前として言うと、残業するときは課長とかに残

業していいですかって聞くんですよ。でも課長がね仕事内容がわからないと全部いいよってなってしまう。なぜそうなるのか？簡単に言うと、これが事務事業評価です。前回皆様方に外部評価で確認していただきましたが、実はここがまずいんですね、このコストの中で、ただ助成金がこれだけこういうお金が流れたっていつているのであって、人件費がわからないんです。ここに対して何人、何日間、どれだけ使ったかってわかれば、もしかしてDXで取り返し可能かも知れないって議論ができるんです。全部DXとかLINEとかで全部が正直言って転用できる可能性はないです。でもやりたいじゃないですか。だってこんなに市長も金がない金がないって言われてますけど、大事なものは若者を対象とした事業にお金を配備していきたいんです。それも一番少ないコストで。そこで一番簡単なのはロボットなんですよ。これね、自動販売機モデルといわれているんですけど、ガシャンガシャンでサービスをもらえば。そんなものは実はないんです。ないんだけどできるだけ人の手をかけたくない。ということは、どれだけ人件費がかかっているかを事務事業当たりで確認しないとわからないです。これね、僕いろんな自治体でやっているのですが、いつもクレームするんですよ、めんどくせえって。でもやらないと駄目なんです。そうしないとお金の額がわからない。もっと言うと適正な人員配置の根拠がないから、組合と揉めるんです。組合的にはもっと増やせっていうんです。あとですね、各課もみんな人増やせっていうんです。全部はいつてません。いやいや、そうじゃないから。もっと言うと高齢者の人口は急減しているし、もっと言うと、仙北市民は数が少なくなってるので、人がいなくなると進むじゃないですか。なぜそういうすれ違った議論が発生するかというのは、数字でコントロールしないからです。もちろん誤差はありますよ。誤差があってもいいからとりあえずやって、ああこれくらいなんだ、もしかして人が削れる範囲があるんじゃないか、っていうことを検討するためにこのコストを詳細化したと思ってます。今はここまでやっています。

二つ目なんですけど、さっきの施策数ですが、すればできるの関係性でもっとちっちゃくできるんじゃないのというのが、正直本数を少なくできるかなと僕は思っています。こんなに本数があって、ちょっと多すぎますね、普通僕の体験からいうと、30から40名ぐらいが標準的だと思います。それだと議論できるんですよ30くらいだと。もうちょっと数字的には本当もうちょっと再整理し、シンプルに普通の人が見てだよっていうレベルまで下げないと多分議論できない。多分ね、難しいなっていう状態。これもちょっとありなんだけど、あまりよろしくない。難しい評価は内部でする

ので、大枠の方針の評価はもっと短くした方がいいのかなと思います。これは日本の総務省がバラバラで計画することになって牽引したために起きた現象なんで、仙北市に瑕疵はないと思います。でもちょっと多いかなと思います。というのが皆様にお伝えしたいことです。

あともう一ついいますね。最後はここです。やっぱり施策ごとの目標値の妥当性の検証が必要です。先ほどの、皆さんこれを見てほしいんですが、やっぱり100%が多すぎる。今なぜ100%なの？残り3年も100%ってことは追加投入はいらさないの？違うと思う。必要なものもあるんですよ。必要でないものもあるんですね、それはわからない調べてみなければ。これはやっぱり数字のあり方をもうちょっと考える必要性が高いかなと。またこれは皆さん方と相談しながら、こういう風に思っているということも聞きたいし、こういう指標があった方がいいんじゃないのか、いやいやもっとこういう風にしたらもっといいんじゃないのか、っていうような生々しいところを伝えていただければ幸いです。仙北市の田んぼというと、補助整備率92.25%ですね。もういいじゃないですか。って言えませんよ。農水省も新しい計画が今作られようしてますし、観光もそうです。観光系は…教育旅行受け入れ人数83.55%。これはまだ行けるかな。観光客数46.45%。でももっと掲げてなければならぬんですね、国の方も実は観光庁が観光基本計画っていう新しいバージョンを来週が再来週かですんですけど、全然違う値になっているんですね、もっと何か増やしたほうがいいかもしれない。っていうふうに、今の事由に合わせてやっぱり数値目標は検討していく必要性があるなと思います。正直5年の計画って長いかもしれない、3年とかが現実的かもしれない、それは皆さんでご議論いただく、検討に値するというふうに思います。それこそ先ほど佐藤さんからパーセントでいいのか。例えばAターン就職率、目標26、30、今回21、70%。そもそも数字少なくないですか？100とか120とかのほうが良くないですか？例えば若い夫婦に来ていただいて、子供2人ぐらいご出産いただいたら70ではなくて150ぐらいまで増えるかもしれないじゃないですか。もっとそこら辺を考える必要性があるかもしれません。また樺細技能後継者育成事業。目標2実績1。これ必要ですかね。これが100だったらわかりますよ、2人で1人の事業を目標にするのはどうだろうなと僕は思うのですがそれは議論の余地あります。こういうのを確認していきたいと思います。もっと突っ込んで欲しいんですよ。これ本当にこの目標でいいのかな、もっと違うのあるんじゃない？例えば僕だったら、樺細工の売り上げだけでいいんじゃないのと思ったりもしますけど。これも税金が入ってますので、樺細工に関し

ても。というふうに1個1個確認していけたらと思います。ちゃんと積んでるのもありますので全部が悪いんじゃないんですよ。ただお忙しくて、かつ時間がない中で作ったのでこうなっちゃったかな。

例えば一番最初の、これも来期以降課題になりますけどクニマス未来館。目標値は3万。今年は1万1000です。必要性、マーケティング、宣伝の仕方を含めて考える時期にきたかもしれません。観光って言うから駄目で、教育って考えるとありかなと思っております。何のために、ってことももう一回考える時期かなと思います。これは仙北市の一つの象徴的な施策ですのですべて否定をするわけではないんですけど、ちょっと少な過ぎない？目標のあり方を変えた方がいい。なんで観光って来たらいいですけど、これから来るかわかんないですよ。ですののでやるべきことは施策の本数を再整理することと、まちづくりの目標をちゃんと考え直すことが一つの次期への目標かなと思います。

それをふまえて令和5年度どうしていいかっていうことをご紹介して、ここで皆様方のご議論していきたいかなと思います。資料は資料8です。ちょっとすいません、資料に間違いがありますので、訂正をお願いしていいですか。まずデジタル田園都市国家計画って書いてありますが、計画ではなくて構想ですので書き直していただけますか。今回令和5年度、来年度何をやるかっていうと、皆さんもデジタル田園都市構想って、新聞紙上ででると思うんですが、あれがですね、地方自治レベルでもちゃんとやれっていう方針が総務省で出してきております。皆さんも地方版まち・人・仕事創生総合戦略の資料はメールでいってるかと思うんですが、あの内容をブラッシュアップしようというふうなのが今総務省が指示を出してきております。そこまでやらなければいけないですね。簡単に言うと、スマホで何ができるかって話と、市役所内部での設定をどうやってスムーズにできるかってことなんです、そこをまず考えていきたいなと思います。先ほど申しましたが、新しい社会で目標の設定をやらないと、いらぬところにいらぬお金を使うといった一番の大元を作っている可能性が高い。

二つ目はやはり役場職員の若手を元気にさせたいんですよ。正直いって僕も50になってしまいましたが、やっぱり20、30の職員が元気になれば市民元気になりますよ。これやらねえ！これ頑張らねえ！っていう生の声をちゃんと皆様方の前に出すようにしたいんですよ。だって、触れあうことについても若い人の方がよくないですか。暗い職員だと市に対して満足感は上がらないんですよ。元気になりたい。あ

と3, 4, 5は一緒でございます。あと方針です。あとですね施策体系と目標値の見直しは、先ほど申しましたけども、今回もそうですが、いろんな議論がありまして、体系とか目標値を見直していかなければならないと思います。そうしないといけないところにいろんなことをやることになってしまう。あと、デジタル田園都市国家構想のすり合わせが必要になります。なぜ必要かという、こういった公的なドキュメントに微妙ですけども、お金の面で助成金や補助金対策という面もあります。やっぱり国の方もですね、国の政策をどうやってやらせるかという、計画に書いてあればお金が出る仕組みもあります。それは否定しがたいですね。そこをちゃんとやります。仙北市、金銭的にタフな状態ですので。そして総合計画と総合戦略の統合を図っていきたいと思います。簡単にはこれが施策と目標値の合体です。再整理したいんです、多すぎるんですよ。だって船頭を多くして山は登れないんですよ。シンプルにしたい、そこをやっていきたいなと思います。

そして市民意識調査はその施策を変えますので、その内容をいじる、改定を図っていきたいと思います。あとですね。業務量調査ってのは先ほど申しました一つ一つの事務事業当たりの職員コストを判定したいと思います。これで、もしかしてですよ。企画政策課は人を多く使ってるかもしれない。ていうことの判定基準がわかります。最後はヒアリングしないとちゃんとわかんないんですよ。数字で抑えられないこともあるから。でも喋る前に数字で確認しておきたいんですよ。ちょっとなんか多くないですかねとか。そして、なんですかって言われて説明できればいいんですよ。全部聞こうなんて思っていないので。こんなことをいうと、なんだ行政職員の首を切れればいいと思ってるのか言うと思うんですが、そんなことはないです。適切に欲しいんですよ。だって、多くの職員も市民ですから。彼らの生活が成り立たないとおかしいんですよ。ですのでもまずそれをやっていきたいと思っています。

そしてあとですね、事務事業評価ですね。これは今調査をスタートして、準備の準備みたいなものですが、補助金と助成金の調査をしたいと思っています。今回新聞紙上、今日コピーを配られたあの件もそうですが、直接お金を配る事業はなかなか大変な時代になってきております。でもですよ、全部配るわけじゃない。必要なものあるんです。そこをちゃんと確認したい。だって若者とか子育てだったらもっと増やしてもいいと思います。僕、個人的には。組織ではそういう決定はしませんけどね、だからそこはちょっと皆さんとご議論していきたい。まず実態調査からです。たぶんですね、いろんな団体さんにお金がちょこちょこ流れてるんじゃないかと僕は想像してい



ます。でもそこをちょっと若者にお金をまわしたらどうかなと思ったりするんですね。僕はねそこを皆さんにご議論していきたい。お金を小さくするところと大きくところ、補助金とか交付金とか助成金とかをちゃんと考えてつくっていききたいなと思います。そうすれば、新聞記事の中で若者の声読まれました？市に言っても対応してくれないことが多かったって。もう胸が痛いんです。それをなくしていきたいんですよ。ということは銭が欲しいんです。というのが皆さんにお伝えしたい点でございます。

あと、施策評価では評価結果を精査したいと思っていて、そして基本計画では目標の検討を、さっきやりました100%が多いことへの検討をしたい。あと経営方針の確認をやりたいと思っています。できれば翌年度皆さんへ報告をしたいと思っています。

これがあくまでもちょっとざっくり感なんですけど、7月までにほぼ評価ものを終わりたいと思っています。それに向けて皆さんに報告したいです。そのなかで、いやーこれもっとこうしたほうがいいんじゃないか？とかですね、ありえると思います。そこをちょっと皆さんと考えていきたいと思っています。なので次の総合政策審議会は8月のお盆前後だと思うんですけど、まだ日程決まってませんけども、議論できればなと思っています。そうすれば来年度の部の経営方針とかも皆さん方がある程度ご確認いただいた成果をもとに作れると思います。それで来年の3月にはもう1回やることになって、今日のご議論を踏まえてもっとこういう調査したらいいんじゃないのとか、ここは足りなかったかなってところの評価を皆さんとご議論していけたらなと思っています。

という感じが今回ですねありますので、来年度またすいません、こんな感じであんまり上手なしゃべりじゃないんですけど、皆さんと喋っていきたいのは市民の意識がどう変わったか。そこに対して適切なコストをちゃんと払ったかとか、ここに対してどんな政策とか事業をやってきたかとか、そこに対して我々はどんな人材のブラッシュアップとか、例えばもっともっと市民の方に訴えかけることもあると思うんですけど、どんなことをこれからやっていかなければいけないのかってことを皆さんとご議論したいというのが来年度の流れでございます。というところでございますが、ちょうどいい感じの時間ですが、皆さんいかがでしょうか？小原委員なにかご意見ございますでしょうか？

○小原圭介 委員

秋田おばこから参りました小原と申します。冒頭の市長のあいさつで、仙北丸は船底に穴があいているとおっしゃいました。皆さんもご存知だと思いますが、JA秋田おばこ、沈没する寸前でございました。私達が運営する前の事案でありますので、私達には責任はなかったんですけども、沈没させてはならないという想いで今まで5か年の改善計画にのっとり改善に努めてまいりました。行政と民間の団体との違いはもちろんなると思いますが、改革の方針ははっきりと謳った方がいいのかなと思います。うちらは赤字の解消ということが大前提でありましたので、そこは全面にいたします。最も大事だなと思ったのは、失った信頼をどうやって回復するかということでありました。やはり丁寧に親切に、本当に誠意を持って組合の皆さんと対応することで理解が得られ、あの76億の巨額の赤字を解消することができたかなと思います。自分たちは何も、直接は組合員の皆さんが解決してくれたというふうに思っていますので、市長もほんとに大変だろうと思いますけれども。市民が改革をする意識がなければ、改善していかないと感じました。行政の場合は本当に多種多様な業務となっておりますので、私達と同じような感覚では捉えられないなどは思いますけれども。やはりどちらもやることとやらないこと、縮小することって本当に必要で、うちも店舗の統廃合では組合員のお叱りを多く受けましたけれども、これをやらないとどうなるかってちゃんと示して、そしてこれからもまだそういう方向性で動いてる部分もありますが、市長には大変申し訳ないんですけども、矢面に立つという覚悟でやってまいりました。どんなに叩かれても、でもやるんだという、それを職員の皆さんにも徹底して、とにかく計画を進めなさいと。うちらは叩かれてもいいからということで進めてきて、組合員の理解を得られて改善計画の4年目で計画を達成したなあという風に思っております。ただ組合員の皆様のためには何一つ良いことはなかったなとは思いますが、組織が存続できたことが一番の利益じゃなかったのかなと今は思っております。もう今年度途中で任期は消えますけれども、本当にみんなのために何ができたのかなと今反省をしているところでありますが、市長にもぜひ厳しい状況の中でがんばっていただきたいなあと思います。やはり改革の目的は財務基盤の強化であるというふうに思っています。行政は、その行政サービスが広く浅く人に届かなくても私はいいと思います。というのは、私も今日新聞を見てまいりましたけれども、この80歳という年齢を決めたのはいつの時代の話だと。もう年齢をあげればいいんじゃないかと、

91歳くらいだというふうに実は思っていて、そうすればそれまで折り合いに出さなくてもいいと、経営者の感覚でいえば（笑）、そんなことができるのであればですね、年齢を上げるって、そういうふうに直感的に感じました。本当に大企業である市の市長にもよろしくお願ひしたいなと思います。

●細川アドバイザー

細川さん、何かございますか。

○細川義彦 委員

社協の細川です。皆さん大変いつもお世話になっております。冒頭で幸せっていうのは何かというお話があって、多分普通の生活、安心した生活を送れる、そういうことが基本的な部分。それを守るためにどうしたらいいのか、ということでこういうふうなかたちで話し合いをしているということですけども、目的を明確にした部分での細分化した細かい部分の目的っていうのをしっかりと目標に掲げるということが非常に重要だということを再認識しまして、その部分を私達がいろんな資料見ながら、責任持って一つ一つ明確にしていくのも必要な部分ではないかなって改めて感じたところでした。今後の政策の方向性につきましては、その部分も私達が責任を持って係わっていかねばならないと改めて思いました。どうぞよろしくお願ひいたします。

●細川アドバイザー

司会の関係上5分ぐらい時間があまっています。他の方、何かございますか。

○佐藤慎 委員

自分は細川さんの説明がとてもわかりやすくよかったなと思いました。前回の1回目の時に自分が参加したときは、ちょっとショックが大きくて、こういうやり方で回しているの市役所って？ちょっとはつきりってマジか！って思いました。でもわかりやすく聞いて、こういう方向に進みたいんだというのが非常にわかりやすく、私はとってもいいことかなと思ってますので、基本的にはどうこういうことはあんまりないんですけど、この資料8のこれからのことだと思いますが、3の目標というところで、仕組み作りって書いてあって、全然そうなんですよ、今までちゃんし

た仕組みがなかったから今の結果になってるんで、それをどうにかしましょうということではいろいろ施策体系だとか、目標値の設定から始まっているいろんな仕組みを作りましょうってなっているんですが。これちょっと仕組みだけでいいのかなって思います。やっぱり仕組みをまず作って、令和5年度それをみんなで実行して振り返っていくっていう仕組みを実行するっていうか、そこまで書きちゃった方がいいんじゃないかなと、自分はちょっとこれだけ見るだけではなんですけどね。

それから資料6裏面の農業法人数ってあったじゃないですか。例えばこれを見たときに、施策のところに人材の確保って書いてあるんですね。これが目的だと思うんですけど。人材を確保するために目標は農業法人数のアップでいいのか、例えばこれを見る限りではね。単純なこれだけを見るとツツコミどころがいっぱいあるじゃないですか。これを令和5年度1回もう全部すっきりさせてっていうか、シンプルにまとめたということ、それはとてもいいと思うんですけど、結局そこにやっぱりその整合性だったり、この目的に対してこの目標で目標値が十分わかってらっしゃると思いますけど、そこをどこまで突っ込めるかだと思うんですよ。

あとはやっぱりさっき細川さんおっしゃってましたけど、そもそもその目標値がそれでいいのっていう、実数とか。そういうのがとても多いので、そこはやっぱり直して、きちりやっていただければ良い計画になると思いました。あと各施策の名称ですよ。綺麗な言葉を綺麗にならべて耳ざわりが良いようにやっているんですが、そういうのをやればやるほど伝わらなくなるんですよ。さっき小原さんお話しされたように、もう大変なんだからもっとズバッとわかりやすく、きつい言葉でもいいと思います。

あと人の割り振りの問題なんですけど、行政ではありえないことは重々わかってるんですけど。やっぱり頑張った人にやっぱり賞レースというところじゃないけど、年功序列とか階級とかじゃなくて、頑張っていない人、成果を出していない人には、賞与がないくらいで、総額を一緒にして、それをがんばった職員たちがぶんどり合戦みたいにやればいいのかと思うんですよ。例えばその部長なり係長とかが、今期のうちの部署ではこういう施策をやりますと、何人いればできると、成果を出した時にはそれだけの効果があったから、その人数で頭数で割ればいいじゃんっていう、それぐらいの仕組みを変えないと、だまっけていても賞与がもらえると、わかんないですよ。でも大体行政ってそう見られちゃいがちなので、そういう先入観で見られるので、そういうのをやめるんだったら、そういうことぐらい思い切ってやって、でもそれは市長だった

りがこうしろとは言えないと思うので、せっかく組合があるんだから、職員組合の中でそういう仕組みにしようと言っちゃうのかもよいかと思います。だって頑張っている人はいっぱいもらえるんだから。それぐらいやってもいいんじゃないかなと思いました。以上であります。

#### ●細川アドバイザー

この計画についてはご意見そういう方向でいきたいと思う。人事に関して言いますと二つの話は人事評価の項目の話になるんですね。これをそのまま議論する場ではないんですけども、中期的には議論していきたいと思います。多分チャレンジといかいう項目をつけて、チャレンジする事業が発生したらプラス $\alpha$ といったようなことが一般的でしょうか。でもそれは実は法律とか条例と関係があるので、それはちょっとそれはお時間いただけないなと思います。当然内部では検討していきますが、ただ、どういうステップでやったらそういうふううまくいってのは、ちょっと今後かなと思います。ただ、頑張っている人にそれなりのお金もしくは名誉を与えるのは当然です。そこはちゃんと頑張っていきたいなと思います。ありがとうございました。皆さんよろしいでしょうか？それでは白木先生の方に司会をお返ししたいと思います。ありがとうございます。

#### ○白木智明 会長

はい。どうも丁寧なありがとうございました。皆さんにとってもかなりボリュームのある資料だったと思います。けれどもかなり理解度が進むという言い方はちょっとあれですけども、仙北市の今がそうなっているのかっていうことがわかったのではないのでしょうか？

それぞれの問題がかなり膨大なので、次年度の皆さんと一緒に一緒に議論していくこともありますので、もしお持ち帰りになって、ちょっと言い足りなかった、ちょっとわからなかったっていうことがありましたら、どうでしょう？メールで事務局の方にお送りしていただいて、すぐに回答していただけるものもあるかもしれませんし、あるいはご意見であれば、次皆さんと集まったときに、実はいただいた宿題はこうだったとか、そういうキャッチボールがあってもいいんじゃないかなと思います。

また、自分のことにすごく関わりがあって、納得いかないとかですね、あるいはもっとこうやったらとか、逆に知り合いの近所の人とお話したら、いやもっともっとや

った方がいいとか、お持ち帰りいただいてよくご検討していただいた上で、もし何かわからないご意見があればメールでお送りいただくということで、事務局の方にもそれを1回タッチしていただいて、すぐに回答ということではなかなかいかないかもしれませんが、そういう足りなかった部分はやりとりしていくことでいかがでしょうか？

お時間も迫ってまいりますので次第の今ですね、(1)と(2)を細川さん中心にご説明をいただいたので、続いて(3)の地域再生計画について事務局の方からご説明いただけますでしょうか？

○高橋康課長補佐

はい。地域再生計画の報告については、私、企画政策課の高橋から報告申し上げます。お手持ちの資料では、資料の9になります。初めに地域再生計画の概要についてご説明いたします。地域再生計画は平成17年制定の地域再生法に基づいて総理大臣が認定する計画で、地域経済の活性化や雇用機会の創出など、地域活力の再生を総合的に推進するため、企業版ふるさと納税の活用や地方創生関連個人事業を実施する際に内閣府に提出することが義務づけられているものです。関連事業の実施に当たっては、地方公共団体のみでの取り組みではなく、民間と共同して行うことが望ましいとされており、仙北市で令和3年度に該当となっていた計画は、企業版ふるさと納税、地方創生推進交付金事業であり、いずれの計画も本審議会に事業実績等の報告を行うものとして規定しているため、今回ご説明するものであります。

初めに1ページ目になりますけど、企業版ふるさと納税を活用した事業についてご説明いたします。令和3年度アステリア株式会社から寄付金100万円を「桜まちづくり事業費」に、株式会社三木設計事務所からの寄付金10万円を「放課後児童対策事業」に、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社からの寄付金10万円を「若者マイホーム取得助成金事業」にいただき、各事業に充当しております。

「桜まちづくり事業」では文化財に指定されていない桜を対象に、草刈、施肥、剪定作業を行い、桜の維持管理の他、桜に対する有害鳥獣「ウソ」の駆除を実施しております。

「放課後児童対策事業」は、本市で暮らす子育て世代が、育児と仕事の両立を実現するため、小学生の児童を受け入れる放課後児童クラブを運営するための経費に充てられているものです。昨年度は市内7団体で100人以上の児童の利用がありました。

「若者マイホーム取得助成金」は住宅を取得する45歳以下の夫婦に対して、市内業者が施工した場合70万円、市外業者の場合50万円の助成金を交付するもので、今年度で終了となる事業ではありますが、令和3年度は22件、うち市内業者14件の助成を実施しております。

次に2ページ目になります。地方創生交付金事業である2事業についてご報告いたします。一つ目は「サテライトオフィス誘致促進事業」になります。先ほど細川アドバイザーのお話にもありましたが、仙北市では高校卒業後の市外への転出による若者の社会減が大きな課題となっており、若年層の就職先として人気があるIT系などの事務職を中心に首都圏企業等のサテライトオフィスの誘致に取り組んだ事業になります。昨年度は3ヶ年事業の初年度になります。サテライトオフィス設置に興味のあるデジタル企業向けのモニターツアー、誘致した企業の足となる田沢湖地区での新型モビリティサービス実証に向けた事業化計画の策定、デジタル企業のニーズに応えられる人材を育成するための研修等を実施する予定でしたが、このうちモニターツアーについては、感染症第6波と重なり、残念ながらリアルでのツアーは中止となり、代替としてオンラインツアーという形で実施しております。今回の報告事項ではございませんが、2年目の今年度はモニターツアーの実施が叶い、3社の誘致に成功しております。

最後に、「地域ブランディングによる観光まちづくり事業」についてです。本市のインバウンドはこれまで東アジアからの団体旅行者が主流なこともあり、滞在時間は短く、消費金額が少ないことが課題となっておりました。その課題解決のため、欧米豪や東南アジアの個人旅行者の受入態勢整備やコンテンツ造成、海外プロモーション等を実施した事業で、昨年度が3ヶ年事業の最終年度となっております。具体的な事業内容として、新たなアクティビティの創出および事業者の育成、海外向けの動画作成およびプロモーション、角館地区田沢湖地区それぞれにおける観光動態調査、観光協会ホームページへのアクセス情報の分析等を実施した他、海外との窓口担当として国際交流員を1人雇用しております。

地域再生計画関連の説明についてのご報告は以上となります。

○臼木智明 会長

はい、どうもありがとうございます。令和3年度のということで振り返りになりますけれども、企業版ふるさと納税を活用した地方創生交付金ふるさと納税を活用した

事業と、それから地方交付税地方創生推進交付金を使った事業、二つの項目ございましたけれども、何かご質問とかご意見ございますでしょうか？ふるさと納税という  
と、つつい個人の献金とか寄付とその返礼品が話題になりがちなんですけれども、最近はこの企業版という方もかなり注目をされていまして、きまった金額を特定の目的に寄付をしていただけることで、積極的にこういったふるさと納税をしていただきたいということで、各市町村が競争しているということをよく伺いますので、これから少しずつこういった部分も増えていけばいいかなという思っております。特によろしいでしょうか。それでは最後にですねその他といいますか、こちらの方でご用意をしている議題、議事はこれで以上ですが、せっかくの機会ですので何かご意見とかご提案がありましたら承ります。はいどうぞ。

○佐藤慎 委員

すいません。さっき始まる前にも事務局にお願いしたんですけど、審議会の開催の日程は次回8月なのでいいんですけど、今回お知らせいただいたのは2週間前なんです。さすがにちょっと、たまたま空いてたのでよかったのですが、もっと早く決めて教えてもらえればそれ以外の予定は入れないようにするので、それをお願いします。以上です。

○臼木智明 会長

いかがでしょうか、なるべく早くとのことですが。

●齋藤次長

はい。なるべく早く皆様にお知らせするようにしたいと思います。今月終わりくらいまでには次の開催の予定を決めたいと思います。

○臼木智明 会長

はい、あと何かございますか。概ね時間通りということで、皆様方ご協力どうもありがとうございました。以上で審議予定の案件は全てでございますので、以降の進行は事務局の方にお返ししたいと思います。



○齋藤次長

はい、ありがとうございました。最後に市長の方からご挨拶がございます。

○田口市長

皆様、長時間にわたりましてご審議いただきましてありがとうございました。今日は細川政策支援アドバイザーの方から仙北市の現状と今後の方針で取り組む具体的な内容について、皆様方にご説明させていただきました。先ほども小原さんの方からお話がありましたけれども、私も再生っていうのは自分の目標の一つに思っています。本当に大変な状況から復活されたというふうに思いますし、やればできるという勇気もいただいております。私も自分自身で市長になって矢面に立つ覚悟であります。一応政治家なので人気も取りたいし、支持率も欲しいですが、もう本当落ちることばかりで、これから公共料金の値上げとか本当は触れたくはないですが、それをしなければ仙北市の未来が見えない程度ですので、私はそこに関しては本当に強い信念を持って、これからどれだけ批判されても自分自身のその仙北市に対しての思いは貫いていきます。

私達が今こうやって生活できるのは先代、先々代の皆さんがこの地域を残してくれたおかげですので、我々も残す義務があります。責任がありますので、そういった意味で、もう不退転の決意で参ります。財政が厳しいだとか、人口減少だとか、様々厳しい現状もありますが、明るい話もこれから少しずつ出てきます。新聞にもこれからいろいろ取り上げられるような前向きなこともありますし、今実際観光客数が去年の11月から12月まで311万人ぐらいまで戻ってきております。コロナ禍前だと500万人ですのでまだ6割ですが、宿泊の方が顕著に回復をしてきておりまして42万人を超えてきました。これも83%ぐらいコロナ禍前に比べれば復活してきており、今年のこれからですね、角館の桜まつりもコロナ禍前のようなフルの飲食を伴う形で、本当に春を迎えて活気に満ちて開催されるように考えておりますので、仙北市これから本当に前向きに明るく楽しく、みんなが笑顔になれる地域づくり、まさに幸福と全国ナンバーワンを目指して進んでまいりますので、委員の皆様には引き続きご協力、またご支援の方よろしく申し上げます。本当に今日はありがとうございました。

○齋藤次長

それでは本日の審議会は無事終了となります。ありがとうございました。

(終了)